

平成 19 年 12 月 20 日

各 位

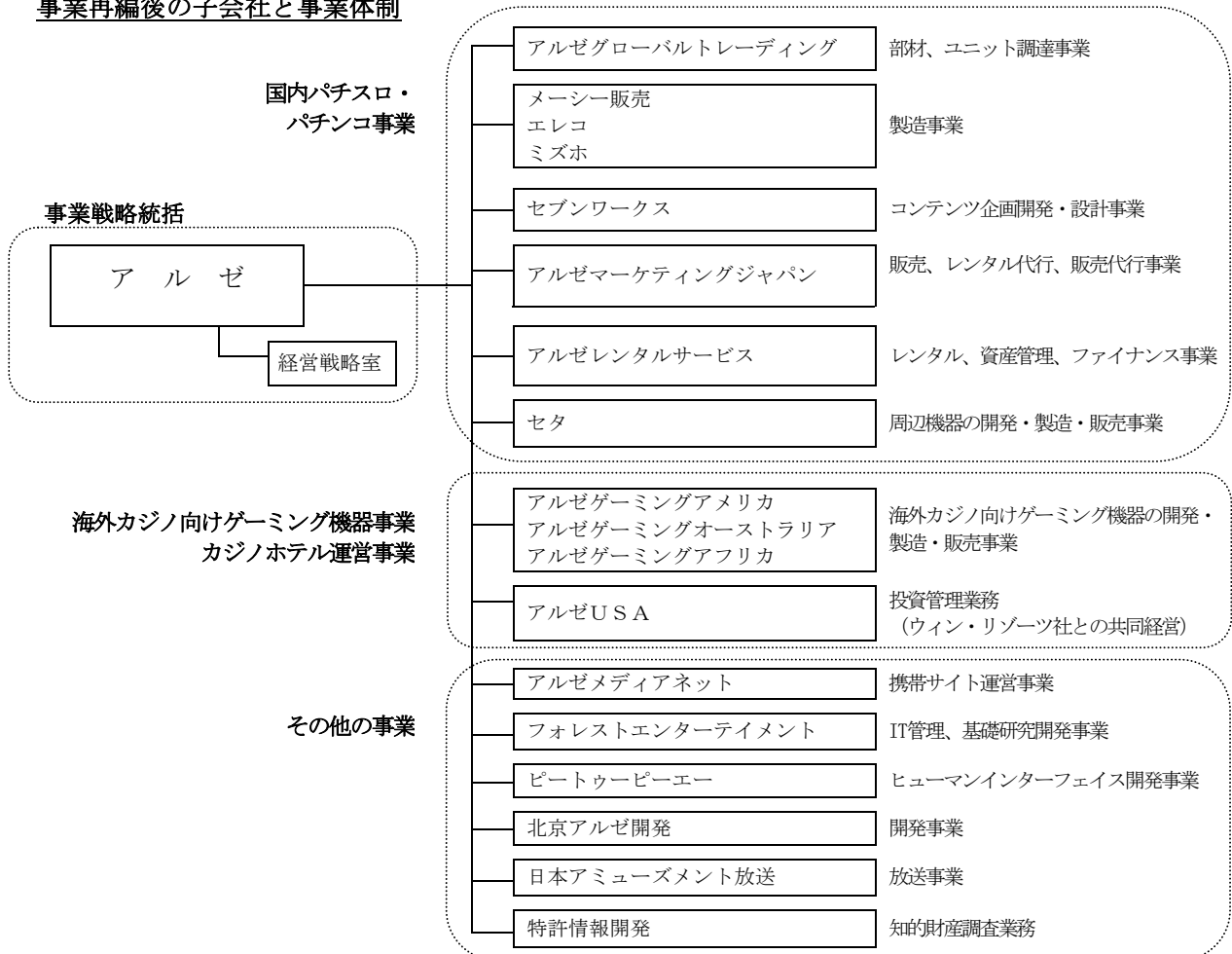
会 社 名 アルゼ株式会社  
 代表者名 代表取締役兼最高経営責任者（CEO）  
 余語 邦彦  
 （JASDAQ・コード 6425）  
 問合せ先 IR室長 西田 紀明  
 電 話 03-5530-3055（代表）

## 事業再編と今後の事業展開について

当社は、かねてよりお知らせしておりますとおり、各事業の役割と責任の所在を明確にし、グループ全体としての機動力の強化と、強い組織体制を作ることを目的として、事業再編を進めてまいりました。このたび、事業再編の総仕上げとして、当社主導により子会社である株式会社セタに対し上場廃止を前提とした公開買付を実施いたしました。これにより、同社の周辺機器事業に関するノウハウや開発資産、販売体制をグループ内に確保することができました。

今後も、来年3月を目処に、事業再編の最終段階までの組織改革を進め、3つのコアビジネスの本格的な拡大に備えて、より強固な組織・人管理体制の確立を図ってまいります所存であります。

### 事業再編後の子会社と事業体制



このような体制の下で、当社は、①国内パチスロ・パチンコ事業、②海外カジノ向けゲーミング機器事業、③カジノリゾート運営事業を3つのコアビジネスとしておりますが、特に、②海外カジノ向けゲーミング機器事業および③カジノリゾート運営事業につきましては、今後、当社の売上高で大きな比重を占めてくるものと考えております。

ここで改めて国内事業の状況説明と併せて、今後のカジノ構想の全般について次のとおりお知らせいたします。

## 1. 国内パチスロ・パチンコ事業

国内パチスロ・パチンコ事業は、過度に射幸性の高い機器の入れ替えによる影響もあり、市場規模が一時に比較して減少するなど、厳しい市場環境の変化にさらされてまいりました。

当社はかねてより、パチスロ市場の健全な育成のため、いち早く5号機の普及に努めてまいりましたが、ここにきてようやく新規則のもとで平等な競争ができる環境となりました。これにより、当社の開発、販売営業能力が十分に発揮され、本格的に活動できる状況になり、この3～4年の不振から脱却いたしました。

特に開発戦略としての製品開発については、アミューズメント、ゲーム分野での映像表現を中心的コンセプトとして開発したX筐体を始めとして、世界で初めてとなる透明液晶を使用したDX筐体を開発いたしました。

当社は、このようにリール構成と透明液晶によるコラボレーションを生かした機械、リールの絵柄の組み合わせと連動した映像による面白みを発揮させた作品を中心に開発を進めております。さらにパチスロの醍醐味を十分生かし、リールの動作によって大当たりの期待を持たせる絵柄の組み合わせやリーチ目、さらに、筐体デザインのイメージに合った絵柄のデザインや見やすさを重視したリールなど、フィット感を重視した製品開発を行う等、業界で唯一、製品区分毎にコンセプトを明確にした3種類の筐体の特徴を生かした作品を開発しております。

また、独自の特許である前段判定（技術の優劣に関係なく誰が遊技しても公平な条件で同じ結果が得られるようにコンピューターで予め当たりかハズレかを決定しておく業界初の機能）での入賞方式を用いることで、前段判定信号を活用した一定の法則性をもたせた独自の演出により、入賞信号が持つリール図柄および入賞配当の有無を遊技者に推測させるようなゲーム性に優れた作品を開発する等、他社とは全く異なるコンセプトをもつ独自の機械を開発し続けております。

国内パチスロ・パチンコ事業に関する組織体制につきましては、開発と営業販売とを完全に区分し、相互に独立しつつ、協力関係を維持・強化することを目的として、アルゼグループの中で、コンテンツ企画開発を行う株式会社セブンワークスを独立させました。

他方、営業販売体制については、機動力をアップするとともに、責任の明確化による販売力の強化を目的としてアルゼマーケティングジャパン株式会社を独立させました。具体的には、支店体制の構築および幹部社員への教育を徹底することで、役割の明確化、責任意識の向上、顧客主義の徹底を図り、また、本部機能を再編・強化することなどにより、状況変化に即時対応できる機動的な組織体制を構築いたしました。

また、パチスロ・パチンコの周辺機器に関する事業につきましても、事業再編の総仕上げとして株式会社セタを完全にグループに取り込むことにより、同社のパチスロ・パチンコサンド等にかかる技術的資産を十分活用するとともに、当社グループの営業力をもって契約店舗数の拡大を目指してまいります。

このような製品開発戦略と開発・販売の組織体制の強化によって、より魅力的な製品を多くのお客様に提供することが可能となり、当社は国内パチスロ事業において早期にマーケットシェアNo.1を奪取し、同時にパチンコ事業にも本格的に参入し、シェア獲得を推進してまいります。

## 2. 海外カジノ向けゲーミング機器事業

当社は、来期を目途として海外カジノ向けゲーミング機器事業を完全に独立させ、その翌期には世界トップクラスのゲーミング機器事業会社となることを目指し、来期より3年間を目処に国内パチスロ・パチンコ事業に匹敵する業績を上げていきたいと考えております。そのために、米国を中心として南アフリカ、オーストラリアの海外3拠点を機軸にグローバルな事業展開とアジア市場への販売体制の強化を図っていく予定であります。

まず、米国市場につきましては、本年12月からインディアンカジノ向けの販売を本格的に開始する予定であります。さらに、大手カジノに対しての機械販売のライセンスは来年3月には確保できる見込みであり、これにより4月以降には本格的な販売活動の開始を計画しております。

このため、当社の子会社であるAruze Gaming America, Inc. は、本格的な販売活動の開始に先立ち、当社会長岡田和生からの資金提供により、資本金約35億円を目途として、その資本力・財政基盤を強化する予定であります。これにより、Aruze Gaming America, Inc. は、当社から独立して事業活動が行える財務体質を構築でき、十分な運転資金を確保することによってビジネスの幅を拡大していく予定であります。

なお、南アフリカ市場につきましては、当社のスロットマシン「サンライズ」のリプレイス需要4,000台の完全取り込みを行っていく予定であり、オーストラリア市場につきましては、ニュージーランド、ニューカレドニア、オーストラリアのビクトリア州およびサウスオーストラリア州のマーケット拡大により、販売拡大を推進いたします。成長著しいマカオ市場を中心としたアジア市場への販売につきましては、本年11月より東京からの直販体制で対応しております。

## 3. カジノリゾート運営事業

当社は、ウィン・リゾート社への出資を通じて平成12年（2000年）10月から同社と共同で海外カジノリゾート事業を行ってまいりました。ウィン・リゾート社は、ハラズ、ベネチアン、MGM等の巨大カジノとは異なり、富裕層にターゲットを絞ったサービスを提供してまいりました。

その結果、カジノホテル間の競争が激化している中で、売上高、利益および集客の全ての点で競争激化の影響を全く受けることなく、米国の「ウィン・ラスベガス」、マカオの「ウィン・マカオ」という2つのカジノリゾートは共に好調な稼働を記録しております。「ウィン・ラスベガス」の本年第2四半期における平均客室料は311米ドルと、ラスベガス平均の142米ドルを大きく上回っており、客室稼働率も97.0%とラスベガス平均の92.6%を上回っております。同様に、「ウィン・マカオ」につきましても、本年第2四半期の平均客室料は258米ドル（マカオ平均：83米ドル）、客室稼働率は86.2%（マカオ平均：73.4%）と高単価、高稼働率を示しております。これは、富裕層をターゲットとしたウィン・リゾート社の経営戦略が奏功していることの証左であります。

このように、ウィン・リゾート社の業績は極めて好調に推移しており、同社の第1四半期の純利益は58,405千米ドル、第2四半期の純利益は89,550米ドルとなり、中間期合計で147,955千米ドル（約17,800百万円）が当社の連結経常利益に貢献しております（当社は、当中間期においては営業外収益として4,293百万円を計上）。

今後においても、「ウィン・ラスベガス」および「ウィン・マカオ」の好調な稼働状況が見込めることから、ウィン・リゾート社から当社連結決算における利益貢献が継続的に期待できると考えております。

また、本年 11 月 19 日に開催された同社の取締役会において、株式 1 株につき 6 ドルの配当がなされることが決議され、この結果、12 月中旬には当社に対して約 160 億円の配当がなされております。

なお、「ウィン・ラスベガス」につきましては、隣接地で約 2,000 室のスイートルームを備えた「アンコール・アット・ウィン・ラスベガス」を建築中であり、平成 21 年（2009 年）初頭のオープンを予定しております。同ホテルが完成することにより、部屋数およびカジノスペースは現状の倍の規模となります。

また、「ウィン・マカオ」につきましては、カジノスペースを拡大し、さらに施設の充実を図っていく予定であります。加えて、約 400 室のスイートルームなどを備えた「ウィン・ダイヤモンド・スイート」が着工され、平成 22 年（2010 年）前半に開業予定であります。さらにマカオのコタイ地区において 52 エーカー（約 21 万㎡）の土地取得を申請中であり、カジノリゾートの建築を検討しております。来期には具体的な建築時期について計画される予定であります。

#### **4. アジア地域における当社のカジノ進出について**

当社は、マカオを初めとするアジア地域においてカジノリゾート運営に必要なライセンスを獲得し、来年度には当社独自でのカジノリゾート運営を開始したいと考えております。

カジノリゾート運営を成功させるためには、ホテル建設と運営に関する豊富な知識と経験、魅力的な施設作りに関するノウハウ、カジノリゾート運営に精通した優秀な人材の確保などが重要なポイントとなりますが、それらの経営上の重要なノウハウについてはウィン・リゾート社のスティーブ・ウィン氏の全面的な協力を得て実施してまいり所存であります。

スティーブ・ウィン氏とは、当社がアジア地域において単独でカジノリゾート運営を成功させるために、ウィン・リゾート社との積極的な人的交流などを含め、必要な協力を頂けるとい旨の快諾を得ており、ライセンスが獲得でき次第、具体的な実行計画を推進してまいります。

なお、カジノ進出に必要な資金につきましては、2 カ年にわたるウィン・リゾート社からの 300 億円以上の配当金を原資として、当社国内事業による利益、公募等による資金調達を組み合わせた資金計画を今後立案していく予定であります。

アジア地域における具体的な進出先、時期、資金計画等の詳細につきましては、決定次第順次お知らせいたします。

以上